

2024 年 8 月 26 日  
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で  
～熊本市内の小学校教員を対象とした海事講座・海事施設見学会を開催～

当協会では、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し、海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しています。

このたび、九州運輸局熊本支局および九州海事広報協会等と協力し、8月22日（木）に熊本市小学校社会科研究会の教員 33 名を対象とした海事産業見学会を実施しましたので、その模様をお知らせします。

はじめに長洲港に移動し、有明フェリーの協力のもと、フェリー「有明きぼう」に乗船し、長洲港から多比良港間を往復しました。船内では、ブリッジ（操船を行う場所）や機関室を見学しながら、夫々の設備や、船員の役割・働き方について船員の方から説明を受けました。



下船後、ジャパンマリンユナイテッド株式会社（以下 JMU）有明事業所に移動し、当協会から熊本と海運業のつながりや日本の貿易量の 99%以上を海運が担っていること、日々の暮らしに海運や港湾といった海事産業が密接に関わっていること等を説明したほか、九州海事広報協会からは、海事産業の認知・理解向上に向けた広報活動について説明がありました。JMU からは、有明事業所の概要とあわせて、現在 JMU が取り組むアンモニア燃料アンモニア輸送船の開発について説明を聞き、造船業における環境への取り組みを学びまし



た。

講義のあとは、JMU 職員の方の説明を聞きながら、バスで造船工場を一周し、車内から部品を溶接して組み立てる様子等を見学しました。その後、ドックを徒歩で見学し、巨大なゴライアスクレーン（船のブロックの搭載に使われるコの字型のクレーン）で船舶を組み立てる様子を間近で見て、造船業の迫力とダイナミズムを体感しました。

最後には、同事業所で同日に実施されていた船舶の引き渡し式に参加し、旗を振りながら出航する船と船員を見送るという、大変貴重な体験をすることができました。



参加した教員からは「今回の見学会で海運や造船に関する理解がさらに深まった」「授業作りに早速活かしていきたい」といった感想が寄せられました。当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運をはじめとする海事産業がより教育の場で取り入れられるよう、各種活動に取り組んでまいります。

以上